

会 議 録

会議名	第2回木更津飛行場周辺まちづくり実施計画策定検討委員会		
開催日	令和5年9月4日（月）	場 所	駅前庁舎8階 防災室・会議室
時 間	午前10時00分～午前12時00分		
出席者	委員：北野幸樹委員長、土田寛副委員長、山崎誠子委員、吉武美由紀委員、 青木健委員、中原まどか委員、中村悌己委員、萩本亜矢委員、 石井宏典委員、秋元淳委員 事務局：企画部 品川次長 地域政策室 鈴木室長、鵜田係長、鈴木主任主事 株式会社日建設計 犬塚氏、田中氏、渡辺氏 （木更津飛行場周辺まちづくり実施計画（吾妻公園）策定支援業務受託者）		
議 題	1 第1回委員会議事内容等の確認 2 まちづくり実施計画（吾妻公園）中間報告		
公開・非公開の別	議題1～2 公開		
傍聴者数	7人		
配付資料	○会議次第 ○資料1 第1回委員会議事内容等の確認 ○資料2 まちづくり実施計画（吾妻公園）中間報告		
会議概要	別紙のとおり		

【会議の概要】

○事務局（鵜田係長）

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
本日の会議は公開で行わせていただきます。
また記録のため、録音、写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。
会議の傍聴を希望される方がおりますので、ここで傍聴人の方に入ってください。

【傍聴人入場】

それではただいまより、第2回木更津飛行場周辺まちづくり実施計画策定検討委員会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます企画部地域政策室の鵜田でございます。よろしくお願いいたします。

ここで会議の定足数について、ご報告させていただきます。附属機関設置条例第6条の第2項の規定によりまして、会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができないとなっておりますが、本日は10名中全員のご出席をいただいておりますので、委員会は成立することをご報告させていただきます。

それでは初めに北野委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。北野委員長よろしくお願いいたします。

○北野委員長

おはようございます。本日は第2回ということで、実施計画の中間報告となっております。

前回の第1回では、委員の皆様より新しい施設空間のあり方に関して、それぞれの立場での多岐にわたる有益なご意見をいただきまして、非常に意味のある議論ができたのではないかと感じております。

今回はその対応も踏み込んだ中間報告ということで、さらに、これからの新しい複合施設のあり方について、深く議論を進めさせていただければと思います。市民に愛される持続的な公共施設のあり方、そういったものを、木更津愛を持って、委員の皆様の忌憚のないご意見を実施計画へと紡いでいきたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（鵜田係長）

ありがとうございました。それでは、早速議事に入りたいと思います。

附属機関設置条例第6条第1項に、委員長が会議の議長となるとありますので、ここからの議事進行につきましては、北野委員長にお願いしたいと思います。北野委員長よろしくお願いいたします。

○北野委員長

それでは議事を進行させていただきます。

本日の議題は2件となっております。まずは、議題1.「第1回委員会議事内容等の確認」について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（鈴木室長）

議題1及び以降の議題につきましては、株式会社日建設計よりご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

【株式会社日建設計より「資料1 第1回委員会議事内容等の確認」を説明】

○北野委員長

議題１．「第１回委員会議事内容等の確認」について説明をいただきましたけれども、この内容につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○青木委員

管理運営の部分なのですが、この答申の中には、管理運営までは入っていないということでよろしいでしょうか。

○事務局（鵜田係長）

今年度の中で、計画の中に明確に記載するまでは難しいかなと考えています。

○萩本委員

委員会全体のことについて質問ですけれども、全５回のうちで何をどこまで決めるのか、今わかっていることがあれば教えていただきたいです。

○事務局（鵜田係長）

前回、第１回目にキックオフという形でこれまでの経緯を説明させていただきました。今回、先ほど説明がありました通り、第１回委員会でいただいたご意見とデザイン会議での意見を踏まえまして、まずはこの公園全体の配置を提案させていただきたいと考えております。

第３回、第４回では各施設の配置が決まってくると同時に、施設の中身の話になってくるかなと思います。

最終的には住民説明会も含めまして、いただいたご意見を第５回で精査させていただいて、最終的に答申をいただくスケジュールで考えております。

○北野委員長

その他にご意見ご質問等ございますでしょうか。では、この議題１に関しましては、ここまでとさせていただきますと思います。

引き続きまして、議題２．「まちづくり実施計画（吾妻公園）中間報告」についてご説明をお願いいたします。

【株式会社日建設より「資料２ まちづくり実施計画（吾妻公園）中間報告」を説明】

○北野委員長

今説明いただきました内容について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

○青木委員

まず初めに７ページで一番下に共用部分ということで、管理運営エリアがございます。そこに管理事務室とありますが、最初から外部委託用の設計なのでしょうか。

あと、１１ページの盛土の件ですが、高さ３ｍにする理由は災害のためだったと思うのですが、盛土の無い案も提案されています。これは災害のための考えを除いた提案なのでしょうか。

○事務局（鵜田係長）

まず１点目の７ページの管理運営部分ですけれども、今のところはこういったところで運営していくのかということを含めてまだ検討段階なので、外部委託を前提にしているものではございません。

○青木委員

公民館や図書館に事務室とかそういったのがないものですから、頭から外部委託の設計になっているのかなと思い、それが確認したかったのです。

○事務局（鵜田係長）

今回、せっかく複合化するということがございますので、例えばその事務室の中でも一緒に共有できる場所は共有していきたいと考えているところです。

それも含めて今後、ご相談させていただきながら検討していければと思っております。

○日建設計（渡辺氏）

2点目の11ページの断面図ですが、上が前年度の基本計画の段階のものになります。全体的に盛土してその上に大屋根広場と施設を配置していくという考えだったのですが、今回これを少し見直しまして、全面的に盛土していくのは、日常の使い勝手から考えるとあまりよろしくないのではないかとということで、日頃、エントランスには1階部分から出入りするような提案としております。

ただし、おっしゃられましたように防災機能というものは、この施設の重要な役割の1つですので、重要な機能は2階以上に配置して、2階以上で防災機能を確保していくといふふうに考えております。

また、例えばある程度は1階部分の浸水を許容しつつも2階以上の安全は確実に確保するなどとか、建物の外側は浸水するけど防水板などを設けて建物の中は浸水しないようにするなど、今後施設の具体的な検討に応じて、防災機能を実際にどう確保していくのかということは、考えていきたいと考えております。

○萩本委員

コンセプトですけれども、ウェルネス（健康・運動）とありますが、江川総合運動場の方に運動機能が主にあって、新しく今作ろうとしている吾妻公園は文化が中心なのでちょっと違和感があります。

○日建設計（渡辺氏）

第1回委員会やデザイン会議等も踏まえまして、この限られた空間でどういうふうな公園にしていきたいかと考えたときに、必ずしも上位計画の要素すべてを網羅したものではなくても良いのではないかと、健康や運動は江川総合運動場の方で重点的に拠点を整備し、こちらは文化芸術や日常的に市民が集まって憩える場というようなかたちがよりふさわしいのではないかと、改めてこういったビジョンを掲げさせていただいたというところでございます。

○萩本委員

括弧の言葉をあえてつけなくても良いのではないかと思います。ウェルネスという言葉の意味も調べてみたのですが、文化とかwellbeingとかQOLの向上といった意味での健康も含まれると思います。ウェルネスはいいかなと思うのですが、その後に（健康・運動）をあえてつけている意図は。

○日建設計（渡辺氏）

これはパークバイプロジェクトにおいて定義されていたフレーズなので、なかなか勝手に消せないところがありまして。ただしおっしゃられるように公園に来ること自体がウェルネスそのものにとらえていいのかなと思います。

○北野委員長

そういう意味では、上位計画においても再検討していく中でまた検討していくということになるかと思いますが。今の貴重なご意見だと思いますので、それも含めて展開していくことができればいいかなと思います。

そのほかに何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

○山崎委員

駐車場のあり方ということで、多目的広場とか交通公園を、ちょっと公園っぽくすることで周辺からの景観は配慮されている方向に向かっているのですが、そもそも駐車台数の必要規模数の570台がどうなのかなということをずっと考えています。

駐車台数の必要台数の出し方ですけど、君津市文化ホールは君津駅から4.2kmとかなり離れたところにある。今回のところは1.1kmとか1.2kmぐらいなので、駅からどう行けるかとか距離が重要ではないかと思います。一番下の四街道市文化センターが、四街道の駅から1.1kmなので一番近い数値です。海浜幕張のメッセのところのホールはよく歩いたなあっていう感じがするのですが、あそこで950mだそうです。なので、そこにおけるアクセスとかを参考にされたら、要は駐車場だらけになっている根拠が君津というのがちょっと違うかなと思うので、そういう目での検討もあると思います。

○北野委員長

私も木更津に学生がよく来て歩いているのですが、木更津で1km歩くのはうちの学生からすると近いと言う。私の大学の近辺で1km歩こうと思ったらもう絶対嫌だって。中心市街地とか空き家とかでいろんな地方自治体も含めて実際に外向いて調査やっていますが、田舎に行くと1kmぐらいだったら歩く。その感覚って人によって大分違うかなと思いつつ、物理的なフィジカルな距離1kmって遠いじゃないですか。その遠さを感じさせないことが大切だと思います。

今この絵にもありますが、同じ1km歩くのでも、歩く気持ちよさってありますよね。私は富士見通りにも関わっていますが、ちゃんと周りの全体が整備されていくと1km歩いてもいい。コンクリートのアスファルトの何もない道、歩道のない道を歩いてくのは嫌だけど、綺麗な道だったら歩いて行けるよねなど、そういうことも含めた吾妻公園のあり方っていうことを考えていこうと。

山崎先生がおっしゃっていたように、本当に駐車場がどれだけ必要なのかというのは包括的に考える必要があるかなと思います。例えば市庁舎を計画するときに、市庁舎の駐車場と吾妻公園じゃ1kmぐらい離れているけど駐車場をうまく活用するために巡回バスが走るみたいなこととか。

全体の計画を考えていって、その場所場所に本当に必要なものは何なのかというところが議論できていくと、新しい公共の姿というのが見えるのではないかと、山崎先生のご意見を聞いて思ったところです。ぜひそんなことも含めてご検討を進めていただけるとありがたいというふうに思います。

他に何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

○中村委員

先ほどの駐車場のところに関連して、僕もやはり駐車場は500台もいらないのかなとは思いつつ、多目的広場として使うのならばやはり最初から広場としての活用方法を考えていいところです。

ここを潰して、イベントなりホールを使う時だけのために駐車場をそこに置いておくのは、少しもったいないのかなと思いました。今でも潮浜公園とか木更津の花火大会の日とかも、イオンモールさんとかの駐車場を使って臨時バスを出したりとかということがありと思うので、そういうところとうまく連携をして、イベントの時には駐車場を貸してもらおうとかということではできるのかなと思います。

多目的広場に関しての活用法としてスポーツや音楽ができるというふうに書いてあったのですが、下がアスファルトの上でスポーツはしたくないかなという気持ちもありますし、熱いアスファルトの上で音楽の演奏をする人がどれだけいるのだろうみたいなところもあります。多分駐車場となると芝生ではないのだろうなと想像しつつも、やはり広場であればそれに適した舗装等が必要なのかなと思いました。

交通公園の使われ方も、ここを臨時駐車場で60台にしちゃうっていうのもすごくもったいないと思います。現状だと小学生とか、ルールを学ぶ機会として使うだけかもしれないけれども、今後は交通公園として幼稚園から低学年ぐらいの小学生が遊べる公園というふうな形で、普段から遊べる公園として使ってもいいのかなと思います。交通にまつわる遊具が多いであるとか、おままご

ととして実際に交通公園で何か横断歩道を渡る練習を子供たちが遊びながらやれるとか、そういった形で普段から公園として遊べるものっていう方がいいのかなと思うので、ここもできれば臨時の駐車場にはして欲しくないと思いました。

○中原委員

今の交通公園のことにに関して、現状、一体どれぐらいの範囲の人達が集まって利用しているのかということと、公共の学校の方でどれぐらいの学校が、交通安全教室などを開いているのかなどの数がわかれば、それに対してのやり方っていうのがもう少し見えてくるかなと思うので、そのアンケートとかをやっていただいてもいいのかなって思いました。

それから人の流れのことにについて、市全体の説明のなかでアウトレットからの流れが一つできていましたけれども、それはアウトレットからどういう人の流れを求めて、この動線ができていいのか、地元の人を呼ぶためのアクセスの形なのか、他の地方から来た方のアクセスのための矢印なのか、それは何かはっきりしたものがあるかを、お伺いしたいと思いました。

あともう1つ、外に対して幼児子供のスペースがあるというのはわかったのですけれども、施設内に幼児のための施設っていうのも入り込む場所が共用部のところにあればなというのも感じました。

○日建設計（渡辺氏）

まず交通公園についてですけれども、どのぐらい範囲の学校が今ここを使っているかというのは把握できていないのですけれども、実際に交通安全教室として使われているのが、大体1クラス数十人とかで来たときにこの3,000㎡の範囲ぐらいで、その理由としては引率の大人が2、3人来た時に、子供たちに目を配れる範囲というふうに伺っております。現在は交通公園としての敷地はこの赤の点線で書いてある12,000㎡ぐらいなのですけれども、実際に使われているのが管理棟なども含めてこの青の範囲で3,000㎡ぐらいだということなので、今回提案させていただいている範囲というのは大体概ねそれぐらいの規模となります。

2点目の広域的な回遊ですけれども、1つは金田地区が人口も増えており、アウトレットなどもあるので、この地元の人たちを呼び込もうというところ。もう1つは都心からバスや自家用車で来て買い物をする、そういった外部からの観光客等の人たちも、金田地区だけに留めておかなくて、このみなとまち木更津らしい中心市街地の方に呼び込んで活性化をしていきたいというところで、この回遊性ということで矢印が引いております。

3点目のこの共用部ですけれども、今回、建物部分はエッセンスだけを述べており、具体的な諸室や細かい機能といったものについては、第3回以降に提案させていただければと思っております。

○事務局（鍋田係長）

事務局から補足としまして、交通公園の利用状況は、大体年間としては9,000人から1万人ほど利用していただいております。

交通安全教室につきましては、市内の小学校のうち遠いところはこちらには来られないのですけれども、近隣の小学校で大体12校の小学校が交通安全教室としてここを使っていると思います。また、保育園、幼稚園の方に関しましても、7か所ほどの園が交通安全教室として使っているというような状況になっております。

○石井委員

11ページですが、前年度の基本計画で3mの盛土があって、その上に図書館、その上にホールということで、避難所としての機能をホールで賄うことができるのかなというのは見てとれると思うのが、今回の検討案につきましては、全面的な盛土はしていません。ここを避難所として使うには、やはり一番広いホールをメインとして、東側にお住まいの方等ここへ避難してきた方々を収容するために可動式の客席を使おうとしているのだと思うので、そのホールの部分に浸水があってしまうと避難所としての機能が薄れてしまう。どうやってその浸水を防ぐかというのは、1階には

水が入ってこないようなパネル、何か新しい方策があるのかもしれないですけど、そこが一番心配だなというのは思いました。

建物を南側へ移し、高さも抑えるというのは、比較を見て全然違うのだなというのは実感したのですけど、市民の皆さんにその景観がいいのか、安心安全で浸水しないホールがいいのか、そこはちょっと心配だなと思いました。

○日建設計（渡辺氏）

ありがとうございます。この絵は非常に模式的に断面を書いているので、今後、具体的に諸室のあり方や各階の作り方というのは検討していくのですが、現段階ではこのホールの1階部分は、ピロティーや駐車場、あとロビー空間が1階に張り出してくるような形で、実際のホール空間そのものは2階以上になるというような形で検討しております。そういったところの工夫をしながら、日常使いと非常時が両立するような施設づくりや空間づくりを具体的に検討して参りたいと考えております。

○秋元委員

7ページなのですが、諸室等の構成が載っていますが、下の注記に、詳細な検討に応じて変更の可能性がありますということなのですが、この検討にあたっては、まだ市や附属機関の意見や市民の意見が検討の段階で入る余地があるのか、それとも、例えばこういう委員会の中でやるとか、何かその辺の検討にあたってのイメージはありますか。

○日建設計（渡辺氏）

詳細な検討の仕方につきましては、先ほども事務局の方からも説明がありましたように、今後、第3回のところでももう少し具体的に諸室なんかを検討していきます。こういった委員会の場でいろいろと意見を伺いながら計画に反映していくということと、第4回と第5回の間で、住民説明会とパブリックコメントを予定しておりますので、そこでご意見を伺いながら、できるだけそのご意見を踏まえて最終的に計画に盛り込んでいくというような形で想定しております。

○中村委員

13ページの公園のイメージを見ていて少し気になったのですが、公園の中は遊歩道のような機能はつけるのでしょうか。

○日建設計（渡辺氏）

今回は緑の芝生のイメージで全部塗りつぶしていますが、実際は園路があって、いろいろな機能や建物エントランスで繋がっていたりとか広場同士が繋がっていたりとか、今後もう少し公園の中のランドスケープを具体化していくというようなイメージでおります。

○中村委員

あと広場とかを作ってしまうと意外と木陰が無くなりがちなので、今年も暑かったですけど、そういった木陰に休めるような空間づくりっていうのも、今後の細かいところにはなりますが、大事にしていきたいかなと思います。

○山崎委員

交通公園のあり方ということで、面積とイメージみたいなものが出ていますが、今の使われ方を見ているとやはり寂しくて暗い、その目的でしかないみたいなところがあります。予算等もあると思うのですが。

私が住んでいる世田谷区で世田谷公園に交通公園ってあるんですね。やはり土日はすごいんですよ、蒸気機関車とかもあったりして、遊具公園みたいな感じの扱い方をされています。あと、善福寺川のところにもやはり交通公園があって、そこは踏切がギャンギャン鳴るぐらいすごく、アミューズメント性が高く、ものすごく流行っているんですね。

だから今回のリニューアルに対して、予算ありきの最低限の構想をするのではなくて、やはり何か1つ目玉になるような交通公園というのも提案していただければいいなと。隣が自衛隊なので戦車とは言わないけど、例えばそういうものも取り入れたような交通公園を、何か木更津らしい交通公園みたいなものができるのではないかな。船が入ってきたりしたら面白いと思うんですけど。

交通公園も魅力的な施設になり得るので、おさなりに今までの通りを作るのではなく、少しアイデアを取り込んでいただきたいなと思いました。

○萩本委員

私が生まれたのが北海道の室蘭市でして、公共施設で交通公園がありました。そこは1回50円とかで子供がゴーカートに乗れて、大人の気分で運転して、信号が赤なら止まるとか、歩行者が来たらちゃんと見るとか、大人の気分に子供がなれるというところで本当に楽しかったです。交通公園プラス、楽しいアミューズメントパークのような要素があれば、みんなが行きたくなると思います。ただ、今まで通りの交通公園ですと、市民の意見としては、ほとんど子どもの記憶に残っていないのが現状なので、なくていいじゃないというふうに率直な意見では言われています。決して、交通公園をなくしてほしいということではなく、たとえば、今のような交通公園に子どもたちが出向く形ではなく、幼稚園や学校に交通公園の機能（持ち運べる横断歩道や信号）を持ち運び交通ルールを学ぶ方法も検討されてはいかがでしょうか。

別件なのですが、11ページの断面でホールの方の荷さばき場が、飛び出たことが気になっています。低くなったことに対して、浸水しないかという同じような心配を私も持っていて、高価なピアノですとかそういうものは、簡単に上に上げたりできないので、1,000万2,000万円するような高いものがおそらく入ると思うので、そういった楽器を浸水から守る方法とか考えて、私は盛土して欲しいなと思います。荷さばき場が外に飛び出ていることで、駐車場からの人の流れが妨げられるのではないかなという心配もしています。

あと土日、アクアラインの上りが結構渋滞するのを見ていて、賑わうのはいいのですが、住んでいる市民としては、あまり土日とその辺に近づきたくないなと思っております。そのエリアに近いところにこういったホールができると、イベントで土日行くことになると思うと車だと時間が読めないという不安があります。人がいっぱい500人とか出入りする時の時間がどれぐらいかかるのか、そういう予測とかもしっかりして設計していただきたいなと思います。

○日建設計（渡辺氏）

貴重なご意見ありがとうございます。今後の施設の具体化の中で、今のご意見を踏まえながら検討して参りたいと思います。

○土田副委員長

先ほどちょっと話題になっている、断面図のところで示している盛土と言っているところの防災機能ですね。基本計画の方で、全面盛土になっている時の文章で災害時となっているのですが、災害時って何の災害か教えてもらえますか。

私のいる学校、足立区の0m地帯にあるので、足立区北千住で万が一荒川堤防が決壊した場合は、浸水高が6mなのです。なので、本学の新校舎は1階の階高を6mにわざわざ上げています。1階は万が一荒川が切れたときは完全に水没するので避難用のボートがあります。孤立した学生教職員向けともいえるのですが、そういう意味だとここは海岸沿いなので浸水っていうのがちょっと災害のイメージに結びつかなかったのです。

○事務局（鵜田係長）

津波の想定浸水深がこの辺りは1mから3mというところでしたので、最大で3m浸水が発生しても施設が浸水しないような高さというところで、盛土3mというのが、昨年度の基本計画の中での検討の結果でした。

○土田副委員長

ありがとうございます。津波は浸水対応ではなくて、津波到来時の避難の方が大きいので、もちろん盛土してあればアイランド状に残る。ある意味、建築防災機能が堅持できるというような考えだと思うのですが、津波に対応する止水版ってないですよね。何も全面的にあげた方がいいとか言うつもりはなくて、例えば1階を駐車場にしておいて、周りをすりつけの盛土にしてしまうとか。盛土部分の擦り付けの勾配が大事で、今の平面図を見ると台座状になっていて急勾配ですね。大屋根広場の一部に古墳状の台地がありますが、ここは多分上がろうという気にならない。逆に言うと、津波対応であれば、津波避難ビルに位置付けたらよくて、1階の日常的な出入りにとどまらず、2階に上がるのをどうするという話が重要になってくると思ったので。その辺、細かいディテールですけど、津波発災から津波到達までの時間が勝負なので、特に東側の住民の方たちが対象だと思いますが、そういったところに対する外構の配慮も要るのではないかと思います。

それと、この中規模ホール整備基本計画というのが令和2年に検討されているということで、このデジタルの時代に、この種のフライタワーがあるようなホールって木更津市さんはいらっしゃるか。これ要は緞帳とか舞台装置を上げ下げするためのものなので、先ほど説明の中で高さを低くしたいとか、配置によっては街路景観に圧迫感があるみたいな話がありましたけど、今デジタルでいろいろなものが処理される中でいうと、こういう従来型のフライタワーを持った本格ホールみたいなものがあるのか。年間どれぐらいの集客力のある興行がされているのかということと、身の丈の施設という意味でいくと、あまり使われないものを持ってしまうとランニングに直接響いてしまいます。木更津市の文化課のホームページ見たら、週1で活動している合唱団が2、3あるようですが、それ以外に劇団があるというのも書いてないし。自前のオーケストラ持っているとも書いてないし、そういう意味だとどういう使い勝手なのだろうと。

コンセプトのところにあるホールはまさに非日常なので、それよりももっと日常生活の中でこのオープンスペースと文化系施設がどうあるのか。先ほど高校生とかいろんな子たちの日常利用みたいなものがありましたけど、それだったらやはりホールの駐車場用のスペースよりは、子供たちが来やすい駐輪場にするにはどうするかとか。

5ページの中に、交通安全教室があって、自衛隊の吹奏楽があって、ジャズコンサートがあって、週末ピクニックがあった時に家族が食事に来る、本を借りに来る高校生がいるとかってということが書いてあるのですが。何となくイメージができないというか、ホールにフォーカスされちゃっている感が否めない。日常的な居場所ってすごく難しくて、ホールがあれば、図書館があれば、公民館があれば、みんなが来るという時代は終わっているような気がしています。逆に、日常的な居場所って、無目的なのだけど何となく足が向いちゃうよねとか、なんか今日嫌なやつにあったとか、先生に怒られたとかいう時に思わず叫びたくなる場所とか、そんな日常風景が木更津にとってどうなのかというようにところが散りばめられているような屋外空間ってどうやったらできるのだろうと思います。

5ページ左側の基本計画の概念図で公園広場の中に具が三つ入ったおにぎりをぼんと置いてある感じで集約型なのですが、もうちょっと分散していくみたいな話もあるかなと考えてしまいました。あえて分散型にしておくとか何があっても対応できる。とりあえずこの1個だけ入れようとかという台所事情も含めて、要は余白を作るというのをランドスケープの発想のベースにされてはどうかと思いました。

○北野委員長

ありがとうございます。

最後ちょっとまとめておきたいと思うのですが、ここに書いてある文化芸術施設と日常的な図書館とか公民館っていうのは、いわゆる非日常と日常を混在させて考えるという、とてもハードル高い作業を今ここではされているのですよね。その中で、5ページみたいに、いろんな日常的行為や非日常的行為がここでは発生するのですという。それはもう理想論なのですが、もう一度、日常的公園ということと文化芸術的非日常を考えるのか、日常的文化芸術を考えるのか、すなわち土田先生がおっしゃっているような、市民の方々が普通に毎日使うようなホールステージを意識するのかどうかということによって、ここの作り方も全く変わってくると思います。

もしそうだとすると、複合施設というのは空間がくっついていることが複合施設ではなくて、い

ろんな空間が同じ場所にあるよというのが複合施設の概念だと思うのです。必ずしも空間が1つであることが複合ではないので、長い目で見たら、100年後、今の施設でいけるわけがないとすると、分散配置する方が、それぞれの機能更新をしやすいかもしれない。

津波が来たときにこの建物は全部浸水しちゃいますよ、土田先生の東京電機大学さんのように、ボートを収納していますよとか、いやこっちの施設は浸水した時でもどうにかなるよとか、もしかするとそこまで長い目で見て、今これだけ建設コストが上がっていたりする現状を鑑みた時に、もう一步、先の未来に向かった作り方はなんかできそうな気がします。

皆さんのご意見を聞いている中で、交通公園、広場、何々の空間のあり方というのを考えたときに、もしコストが合わないのだったらこの部分削除して小さくしちゃうとか、また将来的にそれが増殖できるような余白を残しとくとか、そういったことを含めて考えていく必要がそろそろあるのではないかと思います。そうすると全部に大屋根がかかっている、いろいろな空間がそれぞれあってもいいかなと思っています。公園内の動線などもうまく導いてくことを含めて、何かもう少し考える余地は今の皆さんの意見から出てきたなと思います。

いろんな種というか、そういったものがもう撒かれていて、それをどう育てていくのかなっていうところに来ているのではないかなというふうに感じました。

ということで、今日そろそろお時間になってきましたが、よろしいでしょうか。できれば、今日のいろんな意見を咀嚼していただいて、次のステップへ進めていただければと思います。

ここで議題3についても終了とさせていただきます。

では、本日の議事はこれですべて終了でございます。どうもありがとうございました。

○事務局（鵜田係長）

北野委員長ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、長時間のご質疑ありがとうございました。

以上をもちまして、第2回木更津飛行場周辺まちづくり実施計画策定検討委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

次回の日程はまた決まり次第ご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和5年9月21日

木更津飛行場周辺まちづくり実施計画策定検討委員会委員長 北野 幸樹